

事前評価個表

整理番号	31
------	----

地域（地区）名	鬼怒川地域	事業名	森林環境保全整備事業
計画策定主体	栃木県	対象市町村	宇都宮市ほか6市町
事業実施期間	H23 ~ H27（5年間）	事業実施主体	県、市町、森林組合、森林所有者等

事業の概要・目的	<p>鬼怒川地域は栃木県の中央部に位置し、北西部は日光国立公園の中核である男体山、白根山などの日光火山群が連なり、これらの南東の低山地、中央の平坦都市部から東部丘陵地帯に続いている。総土地面積は238千haで県土の37%を占め、森林面積は142.7（うち民有林 60.7）千haで地域内の森林率は60%であり、民有人工林は30.4千ha、人工林率は50%となっている。本計画では流域内の3市4町を対象としている。</p> <p>北西部日光市は隣接する鹿沼市とともに日光林業地域の中心であり、スギ・ヒノキの生育に適していることから古くから人工林施業による素材生産が盛んに行われ、県内最大の人工造林地帯となっている。南東部丘陵地帯はナラ・クヌギ等の育成天然林施業によるシイタケ原木生産が行われており、これら広葉樹林が里山の景観を形成している。また複数の大規模ダムを抱える利根川流域の最上流部として地域内はもとより下流都県の重要な水源林となっており、水資源のかん養、山地災害防止に加え、保健休養の場として、地球温暖化防止等の多様な公益的機能の高度発揮が求められている。</p> <p>本地域人工林は齢級構成のピークが 齢級前後となっており、利用期を迎えた充実した森林資源を有するものの、林業採算性の悪化や不在村森林所有者の増加等から林業生産活動の停滞や必要な施業の遅れが生じており、さらに近年では北西部の人工林ではシカ・クマによる林木への食害・剥皮被害が甚大であり、これらの対策が喫緊の課題となっている。</p> <p>このことから、本事業では低コストで効率的な施業を進めるための集約化を図り、 ~ 齢級の人工林については引き続き適正な森林造成を目的とした下刈、除伐を行うとともに、 ~ 齢級の林分については路網整備と併せた搬出間伐により材の搬出を積極的に進めていく。また公益的機能の高度発揮に向け、奥地等条件不利人工林の広葉樹林への誘導や、これら施業と併せ野生獣による被害への対策の実施や里山における天然林施業等により多様な森づくりを推進していく。</p>
事業内容・事業費	<p>森林整備：2,657ha 人工造林、下刈り、枝打ち、除伐、間伐、森林作業道等</p> <p>総事業費：1,748,054千円</p>
費用対効果分析結果	<p>B/C = 2.51 (総便益(B) = 7,958,170千円、総費用(C) = 3,168,898千円)</p>
評価結果	<p>必要性：保育対象林分の現状からみて必要性が高い。</p> <p>効率性：投下する費用を上回る効果が見込まれることから、事業の効率性が認められる。</p> <p>有効性：森林資源の有効活用の観点、併せて森林整備による水源かん養、土砂流出防備、また多様な森づくりによる生物多様性等公益的機能の維持増進の観点から有効である。</p> <p>充実期を迎えた森林資源を背景に、林業生産活動が持続的に実施されることによる山村地域の活性化や、適正な森林整備を通じた森林の持つ公益的機能の高度発揮が期待できる計画となっており、費用対効果等の採択要件も満たしていることから平成23年度から本計画を実施することは適当である。</p>

便 益 集 計 表

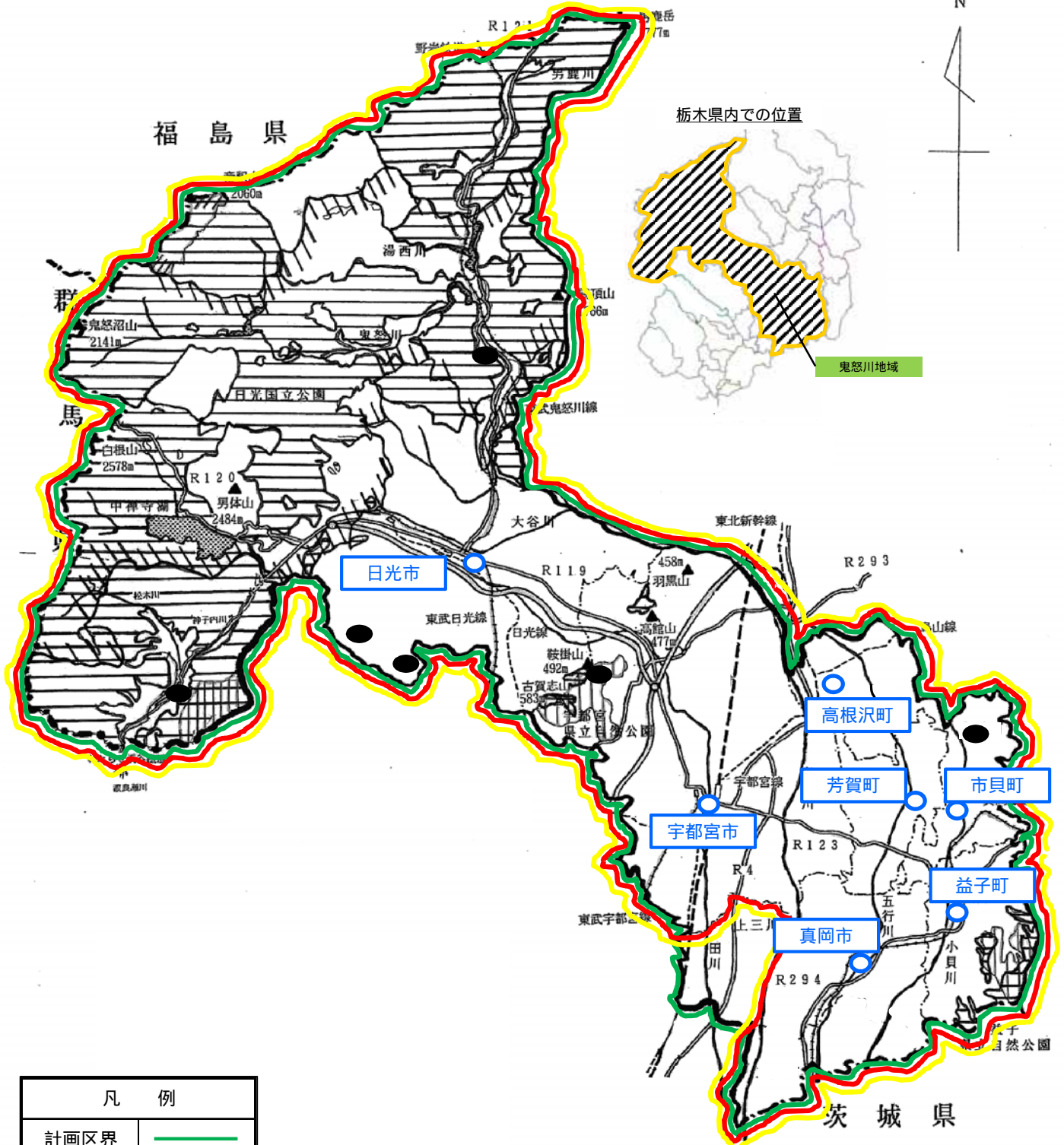
(森林整備事業)

事業名: 森林環境保全整備事業
 地域名: 鬼怒川

栃木県
 (単位: 千円)

大 区 分	中 区 分	評 価 額	備 考
水源かん養便益	洪水防止便益	3,179,095	
	流域貯水便益	69,543	
	水質浄化便益	1,550,717	
山地保全便益	土砂流出防止便益	2,898,354	
環境保全便益	炭素固定便益	179,964	
木材生産便益	木材生産確保・増進便益	80,497	
総 便 益 (B)		7,958,170	
総 費 用 (C)		3,168,898	
費用便益比	$B \div C = \frac{7,958,170}{3,168,898} = 2.51$		

森林環境保全整備事業 鬼怒川地域(栃木県)概要図



凡 例	
計画区界	——
事業区域	——
森林整備	——